

イス治療の内科療法に対する優越性を縮めているかもしれない。近々ガイドライン改定が予定されており、その改定点についても触れてみたい。

第2会場 8:30~10:00

シンポジウム2

リードレスペースメーカー Micra植込みの実際・有用性と将来

座長 副島 京子 杏林大学医学部循環器内科
草野 研吾 国立循環器病研究センター心臓血管内科

演者

1. リードレスペースメーカー 日本における臨床成績
草野 研吾 国立循環器病研究センター心臓血管内科
2. リードレスペースメーカー ピットフォール (dislodge と perforation など)
安藤 献児 小倉記念病院循環器内科
3. リードレスペースメーカー 安全な植込みのために
原田 智雄 聖マリアンナ医科大学循環器内科
4. リードレスペースメーカー Micra の将来
副島 京子 杏林大学医学部循環器内科

2017年9月待望のリードレスペースメーカーが日本の市場に登場し1年あまりが経過した。デバイスポケット、経静脈リード、鎖骨下静脈アクセスが不要になり、手術時間の短縮、被曝量の低減も達成され、患者のみならず、術者にとっても負担が軽減されることが明らかとなり、植込み数は増加している。一方で、静脈アクセス(大腿静脈)に関連する血腫や血管損傷、心タンポナーデなどの合併症、VVIRのみに限定されるペーシングモード、ペースメーカー脱落など、従来の経静脈ペースメーカーにはなかった様々な問題も現場で生じている。特に心タンポナーデは最も気を付けなければならない事象であり、頻度は欧米よりも少ないが、死亡につながる大きな合併症であるため、植込み術を行う際には心臓外科との密接な連携が必要であることをメーカー・学会、共に推奨している。今回のシンポジウムでは植込み時の合併症対策や、今後登場する新機種についても取り上げ discussion を行う予定である。

第1会場 16:50~18:20

★英語セッション

シンポジウム3

Role of Defibrillation Devices in Various Clinical Situations

座長 西崎 光弘 関東学院大学学院保健センター/小田原循環器病院
高橋 尚彦 大分大学医学部循環器内科・臨床検査診断学講座

演者

1. S-ICD (Keynote) (仮)
Martin C. Burke CorVita Health and Science
2. Need of TV-ICD: What Patients should Receive TV-ICD ?
中井 俊子 日本大学医学部内科学系先端不整脈治療学分野